

福井 元校長や教職員OBが結集

再び子を戦場に送るな

教え戦

「教え子を再び戦場に送るな」。日本で310万人が犠牲になったアジア・太平洋戦争の深い反省から生まれたスローガンがいま、輝きを増しています。福井県では、元校長や教職員OBが結集し、「教え子を再び戦場に送らな

広げよう
2000万署名

て、安保法制「戦争法」に反対であると思えば、自分のできる行動に立ち上がりましょう」と訴えています。

危機感つづられ

同会がよびかけたアピールは、「逝(ゆ)いて還(かえ)らぬ教え(お)ん(こ)よ」で始まる高知県の小学校長だった竹本源治の詩を紹介。「この思いは戦後教育の原点であり、不戦を誓った国の歩むべき大道です」とのべ、「再び、悔恨、懺悔(さんげ)の思いを繰り返さないよう、教職員の良心にかけ

良心かけ「戦争法反対」

れ、「運動に」と募金も多く寄せられています。高校で社会科の政治経済を担当していた竹内さん。

「授業では憲法の大切さを教えました。安倍首相は、私の人生と戦後の歴史をそっくり否定しようとしている」と憤ります。

戦前の軍国主義教育は、「天皇のために命をささげる」という精神を子どもたちに植えつけ、侵略戦争にかりたてられたの強力なテコとして使われきました。

教員たちは、生徒を戦場に送る役割を担わされ、少年航空兵や海軍予科練習生などの志願には、軍からの割り当てを満たすよう強要されました。戦後の教育は、多くの教え子を死なせた痛苦の教訓から出発しました。

現役時代対立かも

全国にたたかいたが広がるもとで、県内でも教職員OBが「教職員としてやれることは何か」と話

し合い、「退職教職員全員に声をかけよう」と現役時代に「対立」した元校長にも分け隔てなく訴えることにしました。

「呼びかけ人になってほしい」と声をかけるど、「わかりました」と16人の元校長・教頭が感じました。

アピールに賛同した高校退職教職員は330人余、小中学校の退職教職員も300人に達しました。賛同者が戦争法廃止2000万署名や宣伝に

県内各地でとりくんでいます。

呼びかけ人の一人、橘弥代治(みよじ)さん(79)は、教育委員会で最も長く仕事をしてきた元高校長です。

福井市で開いた2月20日の県民集会でマイクを握りました。

「天皇のために死ねと教えた父母の意志を受け継ぎ、神風特攻隊志願の軍国少年として育った」と振り返りつつ、国民を戦争へと駆り立てた「あの悪夢の再来がいまの安倍政権に臭う」と痛烈に批判。「日本国憲法は世界の津々浦々にまで知られています。安倍政権に国民の鉄ついを下す時がきた」と訴え、拍手に包

まれました。「原稿を作りましたよ」と橘さん。「アメリカ力べったりの安倍政権の偽善的言辭や独善的な政治手法には怒りを覚える。野党が共闘して、彼らを少数派に追い込んでほしい」

元高校長の酒井隆平さん(79)は終戦直前の1945年7月、疎開先から福井の街が空襲で真っ赤に燃えていたのをはっきり覚えているといま

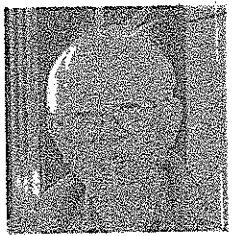
戦後、英語教師になった酒井さん。校長時代にも英語の授業に臨んだことがあります。

「校長先生、大丈夫ですか」と心配そうに聞く生徒たちに、「札幌農学校(現北海道大学)のクラーク博士の『ポイズ・ビー・アンビシャス(少年よ大志を抱け)』に続く言葉は何ですか」と問ひかけ、そして自ら答えました。「ライク・ジス・ールド・マン」

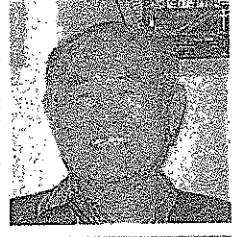
この老人のように「その時の生徒たちの表情はなんともいえない。教育は人を育て、戦争は人と国を破壊するものです。私は教え子のために、残りの人生をかけ



「野党は共闘」を掲げる参加者
2月20日、福井市(山内巧撮影)



竹内謙二さん



橘弥代治さん



酒井隆平さん